

きものSalon

きもの
サロン

'11 春夏号

通販スペシャル企画
 和装名店×きものSalon
 コラボ製品完成
オリジナル誌上通販
はじめます!

女優 **萬田久子**さんの
きもの粋ぞろえ

林 真理子さん
 40歳から着られる
 「染織作家のきもの」

滝川クリステルさん
 きものはじめ

「晴れ」と「常」の
 きものに合うブランド名品

3月~8月
美人3姉妹の
きものコーディネート

華やぎの銀座

宮本亜門さん沖繩きもの語り

BOOK in BOOK

「桜づくし」

いつもと違う“私”を楽しむ、魅せる

きもの集い





Profile

1977年10月1日生まれ。フランス・パリ出身。2002年からニュース番組のキャスターを務め、その美しい容姿と清々しい物言いから一躍人気者に。報道番組、テレビCM出演をはじめ、ボランティア活動も行う。現在は「Mr.サンデー」(毎週日曜22時～フジテレビ系列)でキャスターを務める。

未来へ時を紡いでいくため 開拓精神が何より必要

「祖父が私の成人式用にと、青の地色の振袖を
誂えてくれたんですが、式の当日に

何十年ぶりかの大雪が降り着られずじまいに。
そこで祖父の喜ぶ顔が見たくて後日、

着たんですが、そのすぐ後に、

祖父は亡くなり……振袖姿を見せることが
できて、本当によかったと思っています」

クリステルさんの人生の節目に、

きものとの出会いがあり、別れがあり。そして、
今のきもの文化を取り巻く環境に対する、
彼女なりの見解を伺うことができました。

「伝統を作りなしているきもの職人さんたちが
年々減少していると聞いています。

きものを着る人が減ってきているという声も
聞こえるなか、残念ながらある意味、当然の

現象なのかもしれません。そんな状況に
歯止めをかけるべく、少しずつ潮流は

現れてきていますが、たとえば、

人気ファッションブランドと、長い伝統を
持つきもの、歴史もバックボーンも違う2つの

文化をコラボレーションするのも素敵では
ないでしょうか。それぞれの魅力が相まって、

新しい文化や価値観を生み出せる気がします。
これだけ素敵なきもの文化が、未来へ時を

紡いでいくためには、開拓精神が何より
必要だと思うのです」

クリステルさんの中で、きものへの
次の扉が開かれたよう。

「世代を問わず、楽しめるのがきもの。
私たちが着ることで、

きものの美が継承されるのなら
お手伝いさせていただきたいです」

白地十字緞に ふくれ織り名古屋帯

ゆっくり過ごす休日や、ランチに出かけるときなどに、気軽に着られる袖のきものです。すっきりとした大きめの十字緞は、春先に帯で冒険して着たい装いに。ふくれ織りの名古屋帯は、海の碧さを思わせる色できりりと清涼感を出しています。きもの価格7500円 帯23万1000円(ともに送料上がり) / ともに豊中・織元 華織屋 宮川 帯締め 通巾 華織屋(1万円) シンダント(5万2000円) ショパール パール ジャパン プレス) 羽織 華織屋 ともにモシブラン(モシブラン GBU ジャパン) テーブル・椅子ともにIDC大塚家具 新宿ショールーム

「きもの素晴らしい文化が
継承されないのは、大変悲しいこと。
私たちが着ることで、文化が繋がるのなら、
お手伝いしたいですね」





75年前の祖母の嫁入り道具は呉服展のよう



代々古寺の住職である佐保山家では、きもが生活の一部。上◇75年前にお嫁にきた、船場の呉服商の娘だったお祖母さまの、部屋いっぱいの豪華な嫁入り道具の一部。左◇幼少の芽美さんと20代後半のお母さまとのスナップ。

重厚感あるきもの&帯も小物づかいで私らしく

雅な色彩の松島柄の絹のきものに、軽量ながら能装束のような重厚感を感じさせる、初夏から夏用の袋帯を合わせて。ともに母ゆずりの格調高いきものと帯も、小物の柄や色合わせて若々しい軽やかさを出しています。



娘



母

母ゆずりの振袖は袷か中心、新たに作ったのは紹振袖「本物を、長く」という母の信条を受け継ぎ、古今のきもを愛でる芽美さん。写真右の左側の振袖はお母さまが嫁入り時に着たもの。受け継いで大切に着ている。写真右の右は、自分用に作ってもらった紹の振袖。



軽やかな色づかいの小物で今風に
佐保山芽美さん（大病院医局秘書）

古典的で雅なきものが大好きな、奈良県在住の佐保山芽美さん。着道楽だったお祖母さまや、お母さまからゆずり受けた、上質なきものや帯を大切にしています。鼠肩にする呉服店「豊中・織元」も、お祖母さまの代からのおつき合い。ゆずられたものに合わせて、時折新調するのも楽しみです。

夏、自宅にあるお茶室で、お客さまを迎えるため母娘で茶道具の準備をする充実したひととき。お気に入りのガレの茶入にぴったり

の色柄のきものに心弾みます。辻が花柄の大胆な意匠のきものは、やはり「豊中・織元」でお母さまが一目惚れして求めたもの。帯は、お祖母さまの紹の丸帯を仕立て直したものです。淡い朱色の小物で上品にコーディネートします。

ゆずられたきものには、「帯締めや帯揚げはその時代の感が出てしまうので、今のものを合わせます」という芽美さん。重厚感のあるきものや帯も、軽やかな色づかいで見事に今風にこなします。

母と娘のきものヒストリー

15歳で茶道を始めた頃から、徐々に母のものをゆずり受けるように。母も娘時代に茶道をきっかけにきものを着始め、23歳でのお寺へのお嫁入り時には多数を誂える。



母の紬のきもの残り布を草履に。母娘兼用で楽しむ

黄緑色の鼻緒の草履は、お母さまの紬のきもの残り布で誂えたもの。普段きものひとひねり効かせた、おしゃれのアクセントに。

今どき小物



夏の白地のものは清涼感にこだわり自分用に作る

真っ白な帯は、白さが際立つよう自分用のものを。華奢な芽美さんは帯を仕立てるときに生地が余るため、残り布でバッグも作り、母ゆずりのきものに合わせて。

私がゆずったきものも、
すっかり着こなすようになって

— 母・佐保山以津子さん

いいものって変わらないのね。
これからもずっと大切に着たい

— 娘・佐保山芽美さん

母と娘で茶席の準備。左◇芽美さんのきものは、絹に籠目の地紋という凝った生地に大胆な辻が花柄で、お母さまが昔「豊中・織元」で一目惚れしたもの。お祖母さまの丸帯を仕立て直した絹の袋帯に、淡い朱のグラデーションで選んだ帯締めと帯揚げで上品な印象のコーディネートに。右◇お母さまの以津子さんは藍の御所解きの帯をポイントに趣味のいい着こなし。

冬のこの
 出逢ひ
 うれしきと
 出逢ひ
 よき人との
 出逢ひ



『呉服賑々市』～小紋・きもの三昧～

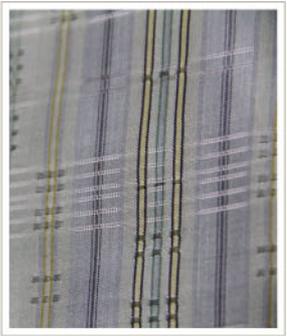
3月16日(水)～3月22日(火) 阪急うめだ本店 11階

『決算市』～うすもの、単衣の楽しみ～

5月19日(木)～5月29日(日) 豊中・織元 本店



御所解文



伊藤峯子 首里花倉織

豊中・織元 本店 豊中市本町4-1-8
 TEL 06-6849-5298(代)
<http://www.orimoto-t.co.jp>